九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Factors associated with the improvement of body image dissatisfaction of female patients with overweight and obesity during cognitive behavioral therapy

横山, 寛明

https://hdl.handle.net/2324/7182337

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：©2022 Yokoyama, Nozaki, Nishihara, Sawamoto, Komaki and Sudo

KYUSHU UNIVERSITY

（別紙様式２）

氏　　名	横山　寛明
論　文　名	Factors associated with the improvement of body image dissatisfaction of female patients with overweight and obesity during cognitive behavioral therapy
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　中尾　智博 副　査　　九州大学　　教授　　神野　尚三 副　査　　九州大学　　教授　　小川　佳宏

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

主論文内容の要旨：認知行動療法（Cognitive behavioral therapy: CBT）は肥満症治療に対する代表的な心理療法の一つである。肥満症に対するCBTは、神経性大食症および過食性障害に対するCBTに由来を持つ。神経性大食症および過食性障害に対するCBTは、通常は体重にはフォーカスせず、食行動およびボディイメージへの不満足感（Body image dissatisfaction: BID）の改善に焦点を当てる。これに対し、肥満症に対するCBTは、食行動改善とBID改善だけでなく、体重減少も重要視する。肥満症に対するCBTに伴うBID改善に、体重減少以外の因子が関連するかどうかについては、現時点で明らかにされていない。申請者らは、肥満症に対するCBTに伴うBID改善に、体重減少以外の因子が関連するかどうかを明らかにすることを目的に研究を実施した。研究の方法は、CBTに基づく7か月間の減量治療を完遂した女性肥満症患者163名（Body mass index 31.8±5.2kg/m^2, 年齢49.3±10.5歳）を対象とした。自己記入式質問紙を用い、治療前および治療終了時点におけるBID、抑うつ、不安、むちゃ食いおよび完全主義を評価した。研究の結果、BIDの変化量（以下Δ）と相関が見られたのは、治療前BID、治療前むちゃ食い、体重減少率、Δ抑うつ、Δ状態不安、 Δ特性不安、Δむちゃ食いおよび Δ完全主義であった。多変量回帰分析の結果、治療前BID、治療前むちゃ食い、体重減少率、Δむちゃ食いおよびΔ抑うつが、独立してΔBIDと関連していた。このことから、申請者らは、体重減少だけでなく、むちゃ食いの改善、抑うつの改善 が独立してBID改善に関連することを見出した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。